



CentreCOM® AR410 V2 リリースノート

この度は、CentreCOM AR410 V2 をご購入いただき、誠にありがとうございました。
このリリースノートは、取扱説明書（J613-M3048-00 Rev.A）とコマンドリファレンス（J613-M3048-01 Rev.L）の補足や、ご使用前にご理解いただきたい注意点など、お客様に最新の情報をお知らせするものです。

最初にこのリリースノートをよくお読みになり、本製品を正しくご使用ください。

1 ファームウェアバージョン 2.6.8-10

2 本バージョンで追加された項目

ファームウェアバージョン 2.6.8-08 から 2.6.8-10 へのバージョンアップにおいて、以下の機能が追加されました。

2.1 SNMP のエンコード方式の設定

 「コマンドリファレンス」 / 「運用・管理」 / 「SNMP」

SNMP マネージャーからの Get 要求に対し、返信する値（カウンター値）が特定の範囲にある場合の動作を設定できます。以前のバージョンのファームウェアでは、カウンター値の先頭 1Byte が省略されるため、SNMP マネージャーによっては正しい値が表示されないことがありました。本設定（デフォルトで ON）により、省略しない値を出力できます。設定は、追加された SET SNMP ASNBERPADDING コマンドで行います。

コマンド

SET SNMP ASNBERPADDING={ON|YES|TRUE|OFF|NO|FALSE}

パラメーター

ASNBERPADDING: SNMP マネージャーからの Get 要求に対し、返信する値（カウンター値）が特定の範囲にある場合、カウンター値の先頭 1Byte を省略するかどうかを示す。（特定の範囲とは、2 進数で表記した場合に先頭 9bit が全て 1 となる数値。32bit カウンターの場合は 4286578688 ～ 4294967295。）ON（デフォルト）の場合、カウンター値の先頭 1Byte を省略しない。OFF を指定すると、カウンター値の先頭 1Byte を省略する。ON、YES、TRUE および OFF、NO、FALSE はそれぞれ同じ意味。

2.2 PPPoE における PADT 送信機能

 「コマンドリファレンス」 / 「PPP」

PPPoE セッション確立中に電源オフ・オンや異常リポートが発生した場合、網側の装置からは確立していたセッション ID をもったパケットが送信されますが、この際、PADT を送信し、網側装置の持つ PPPoE セッションの削除を促すよう、機能拡張しました。なお、本機能を使用するための設定は不要です。

3 本バージョンで修正された項目

ファームウェアバージョン 2.6.8-08 から 2.6.8-10 へのバージョンアップにおいて、以下の項目が修正されました。

- 3.1 ファイアウォールにおいて、フラグメントされた TCP 再送パケットの取り扱いに問題があり、メモリーリークが発生する場合がありますでしたが、これを修正しました。
- 3.2 DNS にて名前解決を行った際に、解決された名前が圧縮されていないパケットを受信するとリポートする場合がありますでしたが、これを修正しました。
- 3.3 SNMP のスイッチポートの一部のエラーカウンタがランダムな値を返すことがありましたが、これを修正しました。
- 3.4 TELNET コマンド (Telnet クライアント) 使用時、Telnet データに不正な改行コードを付加していましたが、これを修正しました。
- 3.5 PPP において FCS のフラグおよび FCS が付加されたパケットを受信した場合、FCS を削除せずにブリッジを行っていましたが、これを修正しました。
- 3.6 AR023 使用時、インターフェースのダウン後、CCP のネゴシエーションが正常に完了しない場合がありますでしたが、これを修正しました。
- 3.7 IPCP で無効な IP アドレスが与えられても、IP アドレスの再割り当て要求以降の処理が正常に行われるよう修正しました。
- 3.8 IP フローテーブルに多数のフローが登録されているときに、一度に多数の IP フローテーブルが削除されると通信に遅延が発生していましたが、これを修正しました。
- 3.9 本製品宛の UDP 通信に対し、誤ったソース IP アドレスで返信を行う場合がありますでしたが、これを修正しました。
- 3.10 ファイアウォールと ENAT が併用されている場合、Linux、Mac OSなどで TCP の Windows Scaling のオプションが有効になっていると、ルーター越しの TCP セッションのスループットが著しく低下していましたが、これを修正しました。
- 3.11 ファイアウォールがフラグメントパケットを処理する際にリポートが発生する場合がありますでしたが、これを修正しました。
- 3.12 DHCP サーバー機能において、DHCP クライアントが接続されているのとは異なるインターフェースを SET IP LOCAL コマンドでデフォルトローカル IP インターフェースに設定していると、DHCP クライアントから BROADCAST フラグの立った DHCP Discover メッセージを受信しても、DHCP Offer メッセージを返しませんでしたでしたが、これを修正しました。
- 3.13 L2TP トンネル確立時にタイブレーク値に対する処理が正しく行われていませんでしたが、これを修正しました。

4 取扱説明書・コマンドリファレンスの補足・誤記訂正

同梱の取扱説明書（J613-M3048-00 Rev.A）、およびコマンドリファレンス（J613-M3048-01 Rev.L）の補足および誤記訂正です。

4.1 SET ETH コマンド



「コマンドリファレンス」 / 「インターフェース」

SET ETH コマンドは、本体内蔵の Ethernet インターフェースポートにのみ設定可能です。オプションの 10M Ethernet インターフェースモジュール AR022 では利用できません。AR022 は常に 10M Half Duplex となります。

4.2 PING コマンド



「コマンドリファレンス」 / 「IP」

PING コマンドの TIMEOUT パラメーターの指定範囲が [TIMEOUT=0..65535] と記載されていますが、正しくは、[TIMEOUT=1..60] となります。訂正してお詫びします。

5 取扱説明書とコマンドリファレンスについて

最新の取扱説明書（J613-M3048-00 Rev.A）とコマンドリファレンス（J613-M3048-01 Rev.L）は弊社ホームページに掲載されています。

本リリースノートは、上記の取扱説明書とコマンドリファレンスに対応した内容になっていますので、お手持ちの取扱説明書、コマンドリファレンスが上記のものでない場合は、弊社 Web ページで最新の情報をご覧ください。

※ パーツナンバー「J613-M3048-01 Rev.L」は、コマンドリファレンスの全ページ（左下）に入っています。

<http://www.allied-teleasis.co.jp/>